

資源の完全循環へ向けたトヨタ自動車の取り組み

「Geological Design（ジオロジカルデザイン）」

トヨタ自動車と共に2024年度グッドデザイン・ベスト100を受賞

地球環境から考えた「捨てるところがないモノづくり」として
「新しいクルマづくり」と廃棄物を持続的に価値化する「仲間づくりの仕組み」を構築

トヨタ・コニック・プロ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：山下 義行、以下「トヨタ・コニック・プロ」）が、トヨタ自動車株式会社（以下、トヨタ）並びに株式会社電通（以下、電通）と共同で取り組む、地球環境から考えた「捨てるところがないモノづくり（資源の完全循環）」と、あらゆる垣根を越えた持続的な「仲間づくりのプロセス」である活動「Geological Design（ジオロジカルデザイン）」で、2024年度グッドデザイン・ベスト100を受賞したことをご報告いたします。



本活動はトヨタ自動車「構造デザインスタジオ」を中心に、トヨタ・コニック・プロと電通も参画し取り組むプロジェクトです。構造デザインスタジオの大学孝一テーマプロデューサーを中心に、従来のクルマづくりの軸である経済軸（安く作りやすい）、技術軸（軽くて高性能）という2つの価値観に、環境軸（地球環境から考える）という概念を追加することで「捨てるところがないモノづくり」の実現を目指しています。そのために、クルマづくりだけでなく、その終わり方（廃棄）まで考え、さらには素材選びから考えなおす。そしてリサイクルでクルマに戻すことのできない廃材については、「仲間づくり」を通じ自治体や地域の工芸家、アーティストと共創することで付加価値をつけアップサイクルする「次の命づくり」に取り組んでおり、これらの考え方を「Geological Design」と称し活動しています。トヨタ・コニック・プロは「仲間作りのための活動PR」と「地域ごとにアップサイクル作品の製作を持続的に行う仕組みづくり」の領域を担い、

職人や自治体との関係構築や、記者発表会・展示会等の宣伝活動の企画運営を行っています。

この度の2024年度グッドデザイン賞では、年間1000万台の自動車を生産するトヨタが挑戦する「捨てる場所がないモノづくり」という新たなモノづくりのスタンダードを作る姿勢と、自動車業界を超え工芸品やアートとの協働を通じて次の命を生み出し続ける仕組みづくり・仲間づくりの点が主に評価され、今後の実現に向けた活動に期待を寄せるコメントをいただきました。

トヨタ・コニック・プロは、これからもトヨタグループの一員として、“一人ひとりの幸せ”のため、モビリティ領域から広がる持続可能な未来に向けて挑戦してまいります

<詳細>グッドデザイン賞 WEB サイト <https://www.g-mark.org/gallery/winners/25806?years=2024>

【「Geological Design (ジオロジカルデザイン)」におけるこれまでの活動】

<クルマづくり>

クルマづくりを素材と工法から見直し、廃棄物そのものの低減や再利用しやすい構造を目指す新しいクルマづくりの仕組みを考える取り組みです。性能を維持向上しながらも、軽量化を実現することで素材廃棄量やCO2排出量を減らす工夫を凝らしており、目下は100kg軽量化に向けたチャレンジを推進しています。実際の道路での走行テストを通じ、市販車への採用にも、少しずつ影響を与え始めています。



<「次の命」づくり×仲間づくり>

産業外のパートナーとの共創を通じて、廃棄物を持続的に価値化する（次の命づくり）仲間づくりの仕組みを考える取り組みです。活動の第一歩として、リサイクル率/アップサイクル率の低いガラス・鉄にフォーカスし「次の命づくり」にチャレンジしています。ただ形を変えるだけでなく、クルマづくりの枠を越えて、多くの自治体や、地域の工芸家、アーティストの方々と想いを重ね、廃材を用いた共創作品が、次々に実現し始めております。

次の命づくり

グラス	ガラス×自動車 金属粉アート	ガラス×自動車 金属材料アート	山形鋳物	南部鉄器	中新田打刃物
					
海馬ガラス工房 村山耕二	海馬ガラス工房 村山耕二	SENTE TAKAYUKI OTA	菊地保寿堂 菊地規泰	薫山工房 佐々木和夫 佐々木健二	石川 刃物製作所 石川美智雄

宮城



長野



山形



岩手



and more..

写真：それぞれが国内外の様々な場で、この活動を発信

【グッドデザイン賞 審査委員のコメント】

「絶対に捨てないクルマづくり」というステートメントは、年間約1000万台を生産する企業にとって、非常に重い挑戦であるはずだ。しかし、あえてこの目標を掲げることで、自動車産業がエネルギー循環や素材開発において果たす役割を進化させ、各企業が進めてきたアップサイクルの取り組みを統合し、大きなムーブメントを生み出す可能性を強く感じさせられ、これが審査委員一同の評価に繋がった。また、大量生産が均等さや均質さを求める一方で、対極にある不均質や歪みをもものづくりの特徴として活かす工芸との協働は、アップサイクルの「環境軸」だけでなく、価値の多様性を重視する「社会軸」を繋がっていく広がり想像させる。厳しいものづくりの軸を加えつつ、新たなものづくりのスタンダードを創造しようとする姿勢。そして、その視線の先にある未来の実現に期待したい。

【本件に関するお問い合わせ】

トヨタ・コニック・プロ株式会社 担当：飯島・垣下・堀内・小野澤

Mail : geological.design@toyotaconiq.co.jp

【会社概要】 トヨタ・コニック・プロ

- 社 名：トヨタ・コニック・プロ株式会社
 - 設 立：2021 年 1 月(創立 1949 年 3 月)
 - 資本金：50 百万円
 - 株 主：トヨタ・コニック・ホールディングス株式会社（100%）
<ホールディングス株主：トヨタ自動車株式会社(66%)、株式会社電通グループ(34%)>
 - 代表者：代表取締役社長 山下 義行
 - 事業内容：トヨタ自動車及びトヨタグループなどのマーケティングサービス・コンサルティング事業、モ
ビリティサービス事業など
 - ウェブサイト：<https://toyotaconiq-pro.co.jp>
-